



皆さん、お久しぶりです！今年はこれまでにない暑さが続いています、いかがお過ごしでしょうか？さて、今回は各学年の行事や授業、学校行事について紹介します。私たちが日頃学校で学んでいることを少しでも知っていただけたらと思います。



宿泊研修 in 宇治 ～1年生～

5月16日から「規律を守り、協力し中を深める」を目標に、宇治市にある YMCA リトリートセンターで3日間の宿泊研修を行いました。

レクリエーションや食事作りでは、今まで話す機会が少なかったクラスメイトとも関わり、寝食を共にすることで日を追うごとに絆を深めることができました。キャンプファイヤーでは理想の看護師像や3年間の目標を聞き、これからお互いに支えあいながら、協力してともに看護師を目指す決意を固めました。3日間を通して、責任をもって自身の役割を全うするだけでなく、周囲に気を配り、主体的に行動し他者に働きかけることの重要性を実感しました。



災害看護と国際協力～2年生～

当校は2年次に「災害看護と国際協力」という科目を設けています。この科目では、災害の基本的知識と災害時の看護師の役割の理解、我が国における災害対策、災害救助活動の理解と国際協力の必要性について学びます。授業は講義のほか、消防署見学や科目に関係する講演を聴講して学びを深めています。

今回は「地球のステージ8」を聴講して得た学びについて紹介します。「地球のステージ」とは、日本で医師として診療を行う一方で国際医療活動をされている桑山紀彦先生が世界の紛争・貧困の地や東北被災地の姿を歌と映像と語りで伝えるステージです。講演では、戦争によって心に傷を抱えた子どもたちが心のケアとしてワークショップに参加し、子どもたちが抱える問題と向き合っている様子が伝えられました。戦争や飢餓など日本では経験することの少ないことが地球上で起こっている事実によって驚愕しました。また、それぞれが「正しい」と認識していることが違い、その違いを認めないことが争いに繋がっていくことを学びました。自分の「正しい」と認識していることだけにとらわれず、相手に歩み寄り、考えを理解することを大切にしたいと思いました。

東日本大震災の語り部である大川ゆかりさんからは被災当時の街の状況や心境、津波から命を守る心構えについてお話を聞きました。大川さんが語る体験談を聞きその時の状況が頭に浮かび、自分のことは自分で守れる

ように災害についてもっと勉強していきたいと思いました。

講演終了後は桑山先生、大川さんを囲み、お二方に質問する時間を設けて頂きました。講演では聞けなかったお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

講演を通して、生命を脅かす戦争や飢餓、災害を生き延びた人々の強さを実感しました。戦争や飢餓、災害を風化させないために、自分たちに何ができるのか考える機会になりました。



桑山先生と大川さんと記念撮影しました

臨地実習の学び～3年生～



3年生は、5月から臨地実習を行っています。実習では、小児から老年まで幅広い年齢と様々な健康レベルにある対象、病院や地域施設等の場の違いの中で、その対象に必要な看護を実践しています。

私は、老年終末期看護学実習でがん終末期にある対象を受け持ちました。苦痛の大きい対象であったため、どうすれば苦痛が緩和し安楽に過ごせるのかを考え関わりました。薬剤の作用時間を考慮して入浴してもらうことや安楽な体位、対象の好きな音楽をかけリラックスして過ごすことなどを実施しました。薬剤を使用して身体的な疼痛を緩和することはもちろんですが、これまでの生活歴からリラックスしてもらえよう環境を整えることでも苦痛の緩和になることに気がつきました。

人生の残された時間に関わらせていただき、苦痛が最小限となるように、また、その対象が必要としていることは何なのかを考え看護していくことの大切さを学びました。

看護の日



チューリップのちぎり絵



ちぎり絵制作



与保呂川清掃

5月2日には「伝える看護、伝わる看護」をテーマに看護の日の活動を行いました。入院のため外に出られない患者様のために四季を感じてもらおうと、四季の花をモチーフにしたちぎり絵を患者様と一緒に作りました。作りながら患者様と沢山お話をすることができとても有意義な時間を過ごすことができました。また、病棟の車いすやワゴンの掃除・与保呂川周囲の清掃活動を行い、看護の日を通して患者さんや地域の人々に日ごろの感謝の気持ちを伝えることができました。

第14回 近畿学生フォーラム

今年も近畿グループ国立病院機構附属看護学校 5校が集まり、第1回学生フォーラムより引き継がれている「広げて つなげて 生まれ 絆！」をメインテーマに第14回学生フォーラムを開催いたしました。今年のサ

ブテーマは「共に生きよう 明るい超高齢社会」です。日本は急激な高齢人口増加のなか、少子化も相まって、現在の社会保障制度の維持が困難であること、また核家族化が進んだため単独世帯が増え認知症の発見が遅れる・孤独死の増加という傾向があります。このような状況の中、高齢者が住み慣れた場所で自分らしい暮らしを、人生の最期まで続けることができるように地域で関わりを持ち、安心して自立した日常生活を営むことができるような環境作りが推進されています。そこで、明るい超高齢社会とはどんな社会か、それらを実現するために看護学生としてできることは何かについて意見交換し、考えを深める機会にしたいと考えました。

講演会は、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護専攻老年看護学／創傷看護学分野教授の真田弘美先生をお招きし、「創傷看護学からみた看護（医療）の無限の可能性」をテーマにご講演頂きました。対象の特徴に合わせた個別性のある看護を提供する必要性、他職種が連携してケアを行う上で同一の視点から評価し、ケアを統一していくことが大切であることを学びました。今後研究が進み、ロボットや AI などが普及されることによって看護の在り方が変わっていくかもしれないと大変興味深く講演を聴くことができました。

毎年恒例の学校紹介は、「各校の魅力を再認識しよう！」をテーマに、各校が取り組んでいる自治会活動や学校行事、学習方法等を発表しました。どの学校も、音楽、映像、劇など工夫を凝らした発表で、楽しく見ることができました。各校さまざまな学習方法を取り入れ勉強していることを知り、自分自身の学習に役立てたいと思いました。

今年は6月の大阪北部地震の影響により開催場所が変更になりました。急な変更ではありましたが、5校それぞれが責任をもって役割を果たし、協力し合うことで無事にフォーラムを開催することができました。

全体を通して、今回の学生フォーラムでは超高齢社会に向けての地域の在り方、介護予防の重要性、これからの医療の発展等を学ぶことができ、サブテーマに掲げた「共に生きよう 明るい超高齢社会」について皆で考える貴重な機会となりました。この学生フォーラムでの学びを成長の糧にし、さらに5校の絆を深めていけるよう、これからも努力していきたいと思ひます。



学校紹介の様子



フォーラム実行委員の集合写真

オープンキャンパスのご案内

今年度もオープンキャンパスを開催しています。

今年度は、教員による模擬授業を計画し毎回内容の違う講義を行います。また、校内をスタンプラリー形式で見学し、看護学校で使用している教材を実際に見て触れることができます。学生や校舎にまつわるクイズを解いたり、看護学生が普段どのような学生生活を送っているのか体験を通して想像することができます。と思ひます。

当校に興味のある方、学校生活の雰囲気を経験したい方など、是非一度参加してみてください。日程・内容、申し込みについては、ホームページをご覧ください。



在校生と参加者の交流場面